

第40回定期演奏会へ向けて

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年9月28日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：39分

合唱曲集を全曲通して歌った後、ヨハネ受難曲の第1楽章と第2楽章を練習しました。

各自録音を聴いて確認をお願いします。

ヨハネ受難曲は、エヴァンゲリストの語りの部分と、イエスやピラトの台詞の部分、群衆の叫びの部分で口調が変わるように意識しましょう。

以前強弱の指示がありましたが、「fの指示だからこうする」ではなく、その時誰が何を話しているのか、場面を想像しながら抑揚をつけて歌えるように確認をお願いします。

テンポも指示以外の場所でも変わりますので、指揮を見て歌えるようにしてください。

備考

♪来週はいよいよよりハーサルです。集合時刻は18:05です。なるべく多くのメンバーが集まった状態で練習開始としたいので、ご協力のほどよろしく申し上げます。遅参の方は事務局宛連絡をお願いします。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年9月21日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：42分

<内容>

前半は合唱曲集、後半にヨハネ受難曲を練習しました。

合唱曲集

★Christ, der du bist der helle Tag

《Tertia pars》

・5小節"so"で始まるフレーズからは、最初の3拍子の緩い感じから締まった雰囲気に変えたいので、テンポが少し速くなります。

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- ・11小節の入りのタイミングは微妙に変わるので注意しましょう。

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

《Der ander Teil》

- ・しめやかに歌い出し、20小節あたりから勝利を意識した曲調となり最後は喜びに満ち溢れた表情に変化していきます。

★ヨハネ受難曲

- ・1曲目の163小節からConclusioまで通して歌いました。
- ・5曲目が特にハーモニーが崩れがちです。フォルテのところが力んでピッチが下がる傾向があります。声を壊さない範囲での音量で表現したいことが十分に伝わると思います。
- ・次回はヨハネ受難曲に重きを置いて練習します。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年9月14日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：36分

- ・引き続き狭い母音 ([u], [i]) の発音に注意して発声しましょう。喋り言葉にならないように。
 - ・ひと通りアンザッツの練習をした後、「レヒナーを歌うための表声をつくる」練習をしました。
- 『最大限の声帯の伸展と最小限の声帯筋肉の緊張の組み合わせ』で発声するという説明がありました。表声というどうしてもガーッと鳴らしたくなりがちですが、この状態を持続できるよう練習してみてください。

<内容>

前半は合唱曲集、後半にヨハネ受難曲を練習しました。

合唱曲集は最初にWenn wir in höchsten Nöten seinを練習したあと、曲順に確認しながら歌いました。

拍数の見誤りや音の間違いなど、単純ミスをなくせるよう、各自確認をお願いします。

フレーズの始めを不用意に入るとハーモニーの乱れに繋がるので、薄いところから入ることを常に意識してください。（特にバス）

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

《Der ander Teil》

- ・44小節（アルト）：最後のCisは前の音から3度下がるのと、和音にミの音がないので不安定になりやすい音です。高めに取るようにお願いします。

★ヨハネ受難曲

全曲通したあと、個別に確認をしました。各自ミスしたところは確認をお願いします。

2022年9月7日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：36分

<内容>

ヨハネ受難曲、合唱曲集を通して歌った後、ヨハネ受難曲の練習をしました。

★ヨハネ受難曲（Erster Teil）

・曲想については配布された表の指示以外にも指揮で表現されているので、なるべく楽譜から目を離して歌えるようにしましょう。

・108～109小節：108小節の3拍目からrit.をかけますが、ここはリズムが錯綜しているので充分注意しましょう。

・111小節～（下3声）：イエスの言葉が語られています。ただ声を弱くするのではなく、穏やかだけども威厳の満ちた声で歌いましょう。

・163小節～：テンポは遅くなっても、音量は落とさないように。イエスが権威を持って抗議し、矛盾を突いているところです。その力強さを表現しましょう。

・177小節：“und”から新しい場面（ハナスがイエスを連れて行った）の説明部分になるので、細い声にして口調を変える。例えば朗読の人がこの場面をどんな口調で喋るのか、想像しましょう。

・第一部の終わりはイエスが捕われてしまったという気持ちが表現できるように。心に染み入るハーモニーで。あと、ピッチも気をつけましょう。

・長い音符が置いてある重要な言葉の部分は少し膨らみが伴うといいと思います。

備考

今日の録音を楽譜を見ながら聞いて、各自練習をお願いします。

2022年8月31日（水）

練習箇所

全曲

記事

全体発声：35分

※いつも裏声と表声それぞれ練習した後に「裏声と表声を“融合”させる」練習をしていますが、その“融合”について

コメントがありました。

“融合”とは、溶け合って1つのものになること。“混ざる”とは似て非なるものです。

2つのもの（裏声と表声）が一緒に合体して、新しい「別の声」になるイメージです。その点を意識して練習してみてください。

<内容>

前半は合唱曲集、後半にヨハネ受難曲を練習しました。全部4拍子の指揮で、テノールパートをキーボードで弾いていただき、3パートで歌いました。

全体的に、以下の注意がありました。

- ・ハーモニーの中に入れてあるか、常に意識しながら歌いましょう。
- ・特にバスは声が落ちないように、“裏声と融合した”表声で歌えるように、軽い声をお願いします。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Quarta pars》

・20小節（バス）：1拍目はFisです。下がりすぎないように注意。（同じ音の動きですが、25小節はFナチュラルです）

《Quinta pars》

・1～2小節（アルト（全員））：最初のフレーズが切れすぎないように注意。子音をしっかり発音しつつ、レガートで歌いましょう。（他パートも同様です）

《Septima pars》

・17小節（バス）：入りのFが決まっています。F-durのハーモニーを意識して入ってくるようにしましょう。

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

《Secunda pars》

・9～10小節（アルト、バス）：ここはアルトよりバスが上に来ますので、バスが高い音域を裏声主体で綺麗に歌うのと同時に、アルトも表声でしっかりと五線の下の音を歌いましょう。下の音が鳴るとハーモニーが決まってきます。

★ヨハネ受難曲

ヨハネ受難曲については、これまでも部分部分で解説がありましたが、場面ごとにテンポやボリューム、歌い方を変えています。

全曲通した構想を一覧化していただけるとのことですが、指揮を見ていないとついていけないので、指揮を見れるようにしていきます。

一度全曲通してから、最後《Fünfter Teil》から最後までもう一度歌いました。

《Conclusio》

・1小節（全体）：2拍目のハーモニーが決まっています。和音を想像して入れるようにしましょう。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年8月24日（水）

練習箇所

全曲

記事

- ・全曲を通して歌いました。
- ・前回同様、ピッチが下がるのが気になりました（下3声部）。指揮なしで他の声部を聞きながら歌うことで精一杯で、力が入ってしまったと思います。もう少し裏声の要素を多くすること、苦手箇所の練習、今一度発音をチェックするなどして次の練習に臨みたいと思います。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年8月17日（水）

練習箇所

全曲

記事

・全曲を1回通して歌いました。指揮無しで他のパートを聞き合いつつ歌うことで、それぞれ課題も見つかったと思いますが、それを生かして次回以降の練習に臨みたいと思います。

備考

今日の練習録音はありません。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年8月11日（木・祝）

練習箇所

全曲

記事

新宿文化センターにて臨時練習を行いました。

全体発声：35分

<内容>

★ヨハネ受難曲

全曲を楽章単位に区切って練習しました。まずは音・リズムを“間違えずに歌える”ようにする。この目標を達成できるよう、各自復習をお願いします。

先生からは何度も「フレージングを意識して」「フレーズを作って」という指示がありました。

「古い時代の曲ということもあり、我々が馴染んでいるメロディとは音の並びが違うと思うが、それを1つのメロディとして、歌として歌って欲しい」というお話がありました。音符1つ1つ歌いにならないよう、フレーズの確認もしていきましょう。

なお、ヨハネ受難曲は四分音符1拍でカウントしていますが、小曲集は二分音符1拍となっています。リズムを勘違

いしないよう注意してください。

《Erster Teil》

- ・163小節～（全員）：ここからの音楽はあまり弱々しくし過ぎないように。しっかり音を鳴らして歌いましょう。アルトの前のフレーズからの伸ばしも弱くしなくてOKです。
- ・172～173小節（全員）：ここだけではありませんが、同じ和音が支配している場所が結構多くあります。同じ和音が続くとそれをキープするのはかえって難しくなります。ハーモニーが崩れてきやすいので意識して保ちながら最後まで歌い継いでいくようにしましょう。

《Vierter Teil》

- ・23～24小節（バス（下3声））："brichst"の語尾をしっかり発音してください。"-chst"を発音する時間を作ることで次の"du"が出てきます。下3声は同じリズムになっているので同様に注意してください。
- ・30小節～（男声）：同じリズムで動いています。お互い聴き合ってアンサンブルができるよう、他パートも意識しましょう。

《Fünfter Teil》

- ・全体：柔らかく歌うところで支えが無くなると歌声として貧弱になるので、音量をあまり落とさず朗々と歌っていても柔らかい声で歌えるようにしましょう。
- ・65～68小節（下3声）：最後まで尻切れトンボにならないようにフレーズを作りましょう。
- ・91小節（全員）：3拍目のハーモニーが崩れないように注意。
- ・102小節～最後（全員）：音で埋め尽くしてください。スカスカの音楽にならないよう、密度の濃い音楽にしましょう。

《Conclusio》

- ・4小節（全員）："hast"の語尾は外切りですが、外に出すのは最後の[t]のみです。全員で揃えましょう。
- ・8小節（全員）：3拍目のハーモニーが崩れないように注意。アルトとバスのBのオクターヴを意識してください。
- ・7～9小節（全員）："o"と"Jesu!"は明確に分けてください。また、各パート"Jesu"で音が下がっていきませんが、ポルタメントが掛からないように注意。

★Christ ist erstanden

- ・3～5小節（バス（全員））："Christ"、"ist"それぞれ語尾の[st]が無くならないように。他パートも同様です。
- ・36小節（テノール）：1拍目はCisです。同じメロディが27小節にありますが、こちらはCですので、勘違いしないよう確認をお願いします。

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- ・16～17小節（バス）：若干走りがちな傾向にあるので、落ち着いて他パートの声を聴いて歌いましょう。

《Secunda pars》

- ・1小節（バス）："Ach"の語尾[ch]が無くなっています。しっかり発音してください。

《Tertia pars》

- ・1小節（全員）："Obschon"の2つの[o]は発音が違います。"Ob-"は明るい発音、"-schon"は暗い発音です。違いを明瞭に出してください。
- ・2～5小節（全員）："die Augen Schlafen ein"を1つのフレーズにしましょう。語尾が尻切れトンボにならないように。
- ・6～13小節（全員）："Herz"の語尾をきちんと発音してください。
- ・15～16小節（バス）："halt"の語尾をきちんと発音してください。ちょうどいい塩梅で語尾を入れましょう。

《Sexta pars》

- ・1～4小節（男声）：縦の線が揃っていません。特に2～3小節で崩れるのでお互い聴き合ってテンポ感を合わせてください。

備考

2022年8月10日 (水)

練習箇所

- ・合唱曲集 (全曲)
- ・ヨハネ受難曲 (Erster Teil)

記事

新宿文化センターにて練習を行いました。

全体発声：33分

<内容>

・まずは間違えないこと (テンポ、リズムも)、そしてハーモニーにも気を配りつつ歌えることを目標に練習しました。

・フレーズの段落を正しく歌うということも重要です。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Tertia pars》

・7小節 (バス、アルト)：1,2拍目のタイミングがなかなか合いませんでした。よく聞き合って歌いましょう。

・16小節 (バス)：“ü”が「イ」になり過ぎないように。

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

・"Nöten"のウムラウトは"höchsten"より暗くする。

《Secunda pars》

・"so"の母音は暗く。

・バス：音符の中に子音の時間を作りましょう (例えば"ist")。子音が無いと、テンポが滑ってしまい、他のパートとズレが生じてしまいます。

★《Allein zu dir, Herr Jesu Christ》

・3小節 (バス)：1拍目fをアルトのeの音にまけないよう、しっかり歌いましょう。

(Der ander Teil)

・5小節 (バス)：“mich,”のあと、フレージングしましょう。

・12~13小節 (アルト)：音が低いですが、しっかり歌いましょう。

★ヨハネ受難曲 (Erster Teil)

・10小節 (アルト)：cの音が下がり過ぎないように、ピッチに気をつけましょう。

・65小節~ (アルト)：高い音のピッチをしっかりキープしてください。

備考

 [冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年8月3日 (水)

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Dieweil Gott ist mein Zuversicht

・ Wenn wir in höchsten Nöten sein

記事

全体発声：39分

<内容>

★ヨハネ受難曲

全曲とりあえず歌ってみました。まずは音・リズムを“間違えずに歌える”よう、各自確認をお願いします。

そして、アンサンブルですので他パートとの縦の線・ハーモニー、さらには“言葉”にできるよう抑揚をつけて歌うことを常に意識しましょう。

《Erster Teil》

・ 105～107小節（バス）：音が飛ぶところを勘違いしやすいので注意しましょう。特に105小節1拍目裏のF、3拍目裏のCが揃っていません。

《Zweiter Teil》

・ 1小節（バス）：出だしのAの音を取り辛いと思いますが和音をイメージして入れるようにしましょう。

《Dritter Teil》

・ 2小節（バス）：出だしの音を勘違いしている方がいます。再度確認しておいてください。

・ 36～37小節（下3声）：縦の線が合っていません。アンサンブルできるよう、他のパートもよく聴いて歌いましょう。

・ 63～64小節（テノール）：2拍目から言葉が始まるのでリズムが取り辛いかも知れませんが、八分音符が乗り遅れないように注意。

《Vierter Teil》

・ 16～17小節（下3声）：アウフタクトからテンポがガラッと変わります。特にアルトが先導して引っ張って行ってください。

《Fünfter Teil》

・ 3～4小節（バス）：“Jesus aber betet”「イエスは、それでも祈って」という意味合いを表現する。機械的なカウントで“aber”に入らないように。

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

一度通して歌いました。

備考

♪来週は10日、11日と連日です。同仁会館が夏休みのため新宿文化センターでの練習となります。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年7月27日（水）

練習箇所

・ 全曲

記事

全体発声：38分

・ ポジションごとにどの筋肉を使うことを目的にしているのか簡単な説明がありました。

<内容>

★合唱曲集

- ・音、発音（主に"u"）、フレーズ感を確認、修正しつつ、間違えないことを目標に全曲歌いました。
- ・フレーズの流れが滞らないようにという指摘が多かったです。

《Christ, der du bist der helle Tag》

◎Tertia pars

・1～5小節：フレーズの流れ、ハーモニーを意識して練習しました。また、"Opschon"の最初の"O"は開いたo、後ろは長母音です。

◎Quarta pars

- ・フレーズ感を意識して、曲が流れるように。
- ・8～10小節（アルト、テノール）：流れが滞らないように。

◎Septima pars

- ・14～15小節（アルト、テノール）：ずれやすいので、注意。テノールのタイのところで立ち止まらないように。

《Wenn wir in höchsten Nöten sein》

- ・冒頭のフレーズ（アルト、テノール）：フレーズの流れが滞らないように。一番上の音に向かって流れるように。

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》

- ・98小節～："befehl"の後ろの"e"が「イ」にならないように。
- ・102小節～：控えめな声であっても、響きのある声で。

《Conclusio》

- ・歌い出しは薄めの声で、透明感のあるハーモニーで。
- ・"o Jesu"はフォルテで。

備考

♪チラシとチケットが配布されました。

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2022年7月20日（水）

練習箇所

- ・全曲

記事

全体発声：33分

<内容>

★ヨハネ受難曲

前半は《Zweiter Teil》を小分けにしながらゆっくり練習しました。後半《Dritter Teil》から最後まで通した後、《Fünfter Teil》《Conclusio》を返しました。

《Zweiter Teil》

- ・26小節（バス）：1拍目"ging"の[i]が潰れた声にならないように。口を縦に開けて柔らかく出しましょう。
- ・45小節～、58小節など（全員）："über"のウムラウトが「イ」に、語尾が「ア」と開きすぎています。「イーバー」と聞こえると不味いのでウムラウトは口をすぼめて、語尾の"-er"は曖昧母音でrを巻いても良いです。開きすぎな

いよう注意。この発音はあらゆるところで登場するので常に意識するようにお願いします。

- ・60小節（テノール）：4拍目の下のGは上に行く軽い声で入ります。
- ・89小節（バス）：1拍目"Ich"の[i]が潰れた声にならないように。
- ・118～120小節（バス）："keine Schuld"が一つの言葉として聴こえるようにフレージングします。"Schuld"の[u]は縦に開けてください。語尾の[t]もしっかりと発音しましょう。119小節八分音符最後のDの音が曖昧になる時があるので確認しておいてください。

《Fünfter Teil》

・90～94小節（バス（全員））："Es ist vollbracht"の台詞に入る時、そして、終わった後の93小節、それぞれテンポも雰囲気も変わります。いずれもバスが先導するので指揮をよく見て、先に行きすぎたり乗り遅れたりしないよう注意してください。

・102小節（全員）：ここから4つ振り、しかもテンポがガラッと変わります。

《Conclusio》

・全体：ハーモニーが決まっています。曲全体を締めくくる美しいハーモニーが鳴るはずですので、意識して歌ってください。

・4小節（全員）：ここは例外的に外切りにします。語尾を全員で合わせましょう。

★合唱曲集

全曲通して歌い、最後に《Wenn wir in höchsten Nöten sein》を返しました。

この曲は男声の譜面が違いますので、出だしでつまづかないよう注意してください。

備考

♪次回、チラシとチケットを配布します。

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年7月13日（水）

練習箇所

・全曲

記事

全体発声：35分

<内容>

★合唱曲集

- ・曲に慣れる為に、全曲を番号順にひとつお通して歌いました。
- ・声部が薄くなる場所は縦の線が揃わないところが多いです。お互いに他の声部をよく聞きながら歌いましょう。
- ・男声：中音域から下になると、声が重くなりピッチが下がります。胴体に響く声でなく、体から離れていく声でしっかり歌いましょう。

《Christ, der du bist der helle Tag》のTertia pars

- ・出だしのハーモニーはしっかり決めましょう。
- ・11小節へのフレーズ：つながったメロディに聞こえるように。言葉が音符に一つづつなのでぶつぶつと切れがちになります。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・まずはリズム、ハーモニーを合わせて曲に慣れることを優先、そして曲の場面に合わせて少し表情を付けて練習し

ました。

- ・4小節：2拍目のハーモニーを練習しました。
- ・13小節～：（ペトロが否認をして雄鶏が鳴く場面）強い口調で歌います。
- ・18小節：2拍目裏のドミソの和音を合わせましょう。
- ・22～31小節：（ペトロが後悔する場面）少ししんみりした感じで。
- ・31小節～：（次の場面の状況説明）ここからは気持ちを改めて、普通の声で歌います。バスはドキュメンタリーのような雰囲気でもここからのフレーズを歌い出します。
- ・41小節～：（ピラトの台詞「お前たちはこの男についてどんな訴えを持ち込んだのか」）少し偉そうな口調で。
- ・48小節～（バス）：（人々（群集）がピラトの問いに「この男が犯罪者でなかったら、あなたに引き渡すようなことはしなかった」と答える場面）強い自信を持った口調で歌い出します。
- ・61～66小節（男声二重唱）：（ピラトが人々のこの答えを受けて、イエスに話しかける場所）あまり劇的なことは言っていないので、あまり激した感じにしないほうがいいです。
- ・75小節～（バス）："Da"と"sprach"がつかないように。また、"sprach"の"ch"を言いましょう。
- ・89小節～（バス）：歌い出しは重い声にならないように。
- ・117～125小節（バス）：（ピラトの台詞）「Ich ~ ihm」、「wollt ihr nun」、「daß ~ losgebe?」とフレーズングします。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年7月3日（日）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ ist erstanden
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

同仁会館にて臨時練習を行いました。

全体発声：40分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》をじっくりと練習しました。

◎1～50小節：

最初（9小節まで）に曲名紹介をして、10小節からエヴァンゲリストの語りが始まります。23小節からユダの名前が登場することで場面が変わります。35小節からユダが群衆を引き連れてくるシーンでさらに緊張感が高まります。

- ・4小節（バス）：2拍目のGを上から入りましょう。前の"-en"を語尾として軽く収めて入り直すように。
- ・6小節（テノール）：2拍目裏からのタイミング、リズムに注意。また、ここは前と同じ音という感覚ではなく、他パートが鳴らしている和音の中から改めてスタートします。
- ・7小節（全員）：1拍目裏のドミソの和音を決めましょう。
- ・10,11小節（女声、バス）："Da"は独立させて"Jesus"と明確に分けましょう。"solches"の[che]の発音に注意。「へ」とならないようにしましょう。
- ・11～14小節（男声）：Cの音は裏声の中にある表声で歌ってください。女声の中に溶け込むように。
- ・16～17小節（上3声）："Kidron"の[d]は前の音価で発音します。「ドロ」にならないように。

- ・22小節（上3声）：1拍目裏のEs-Gの長3度が綺麗にハモるように意識しましょう。
- ・27小節（全員）："wußte"[u]の発音に注意。テノールが28小節でAに上がるところで和音の変化を意識しましょう。
- ・31小節（全員）：1拍目のハーモニーを決めましょう。
- ・49小節（バス）：ここは内切り必須です。50小節に残らないように。

◎50～121小節：

最初の5小節で「イエスはこれから身に起こることをすべて知っていた」という台詞が全員で歌われ、その後イエスと群衆との対話の場面に入ります。イエスについての語りと台詞は厳かな冷静な感じで、一方で群衆の部分は興奮する様子を表現します。103小節からのペトロの乱闘シーンでも、激高する部分と冷静なイエスとの対比が鮮やかです。

- ・50～55小節（全員）：まずはハーモニーを決めましょう。特に52小節1拍目、53小節1拍目裏（"was"）、54小節1拍目に注意。また、"wußte"[u]、"alle"の[a]の発音に注意してください。
- ・70～71小節（全員）：イエスの"Ich bins"の台詞は厳かに。バスは71小節のHのピッチを注意してください。
- ・77～78小節（全員）：ここの"Ich bins"は語りの中に出てくる台詞で、続いてそのイエスの言葉で群衆がバタバタ倒れた様子を語っている（78～84小節）ので強調してはっきり歌います。
- ・94小節（全員）：それまでの3拍子で早口に畳みかけていたが、ここからはイエスが冷静に「弟子たちを放免して欲しい」とお願いする場面に切り替わります。スッと口調を変えましょう。
- ・103～109小節（全員）：ソプラノとテノールはその前からガラリと雰囲気を変えます。どのパートもリズムの噛み合いが難しいので他パートとの関係も意識して縦の線を揃えましょう。
- ・109小節（全員）：下3声は"ab"まで言い切ります。ソプラノは2拍目裏からレガートにチェンジします。
- ・114～118小節（下3声）：ここは大きなフレーズを作りましょう。バスがFの音でずっと支えている上にアルトとテノールが大きな虹を描くようなイメージで。ここは「父から与えられた盃は飲むべきではないか」という台詞ですが、「盃」＝「受難（十字架）」を意味しています。

◎121小節～最後：

イエスがハンナスのところに連れて行かれ、ハンナスの尋問を受けるシーンです。イエスと激高した下役の対比を表現します。177小節からは次の楽章への橋渡しです。カイアファへ送られるシーンを表現して静かに終わります。

- ・125小節（全員）：ソプラノがHになることでハーモニーが変わります。ハンナスのところに連れて行かれた舞台転換を表現しています。情景が変わることを意識して歌いましょう。
- ・159小節（アルト）：下役の台詞はアルトから始まります。しっかりと歌いましょう。
- ・163小節（アルト）：デクレッシェンドの指示はありましたが、入った時は前の口調のままですっきりとお願いします。
- ・166～177小節（全員）：「悪いことを証明せよ」という台詞と「正しいことを話したなら」という台詞で音形が違ってきます。前半はリズムが錯綜し、「悪い」ことを表現した音楽です。一方で後半はリズムもハーモニーも安定しています。これは「正しさ」を表現しています。しっかりと豊かな響きを作りましょう。
- ・177小節～最後（全員）：ここは次への橋渡し、情景を現して取めていく音楽です。特に男声が177小節2拍目から"und"で入るところは厳格に音楽を分けて歌ってください。

★Christ ist erstanden

- ・6小節（バス）：アルトの四分音符とタイミングが合っていません。周りを聴きながらアンサンブルできるようにしましょう。

★Christ, der du bist der helle Tag

全曲通して歌いました。

備考

- ♪今週水曜日はお休みです。次回は7月13日(水)になります。
- ♪小曲集はいったん曲番号順で演奏する方向で練習を進めていきます。

2022年6月29日（水）

練習箇所

- Christ, der du bist der helle Tag
- Wenn wir in höchsten Nöten sein
- Christ ist erstanden
- Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ヨハネ受難曲（1、2楽章）

記事

全体発声：34分

<内容>

- 今日、止まらずに通して歌えることを目標に練習しました。
- ヨハネ受難曲はしばらく練習していなかったこともあり、だいぶ忘れてしまっていました。次回も引き続き1,2楽章を練習します。

備考

2022年6月22日（水）

練習箇所

- Christ ist erstanden
- Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ヨハネ受難曲

記事

全体発声：30分

<内容>

★Christ ist erstanden

この曲は『復活』を歌っている曲なので、華々しく歌いましょう。冒頭のアルトからその雰囲気をお願いします。

- 5小節（アルト）："der"と"Marter"の間ではブレスしないように。4小節目"~ erstanden"までと、"von ~"でフレーズが分かれているので、その間でブレスを取ること。
- 23小節～（全員）："Christ"と"soll"が繋がって聴こえないように、"Christ"の[-st]をきちんと発音しましょう。また、"unser"の語尾は曖昧母音です。バスが巻き舌を使って曖昧母音にする練習をしましたが、全体として「ウンザー」にならないよう注意してください。

・29小節（バス）：2拍目のEsは上でアルトがDを歌っているので引っ張られないようしっかりぶつけてください。また、30小節2拍目のEsはアルトのBと5度ができます。ハーモニーを意識して下からずり上げないように注意しましょう。次の31小節2拍目DもアルトのAとの5度です。

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

《最初の楽章》

・1～3小節（バス）：1小節2拍目のFはソプラノとオクターヴです。下がり過ぎないように注意。また、3小節1拍目のFはアルトが上でEを歌っているところに入るので引っ張られないようにしましょう。

・8小節，11小節（全員）：“ja”の歌い方についてバスの練習でご指導ありました。全員一緒です。

“du wirst mir (gewähren)”の間に“ja”「そうです」という呼び掛けが入っています。この“ja”はテヌート気味にしっかり歌って、かつ次の“gewähren”を歌い直すイメージをお願いします。

譜面を見ると“wirst / mir / ja / ge-”とシラブルが分かれています。それを同じように歌うのではなく、文節として繋げるところと言い直すところの抑揚をつけて歌いましょう。

《Der ander Teil》

・13小節（アルト）：1拍目の付点全音符は音価分伸ばしてください。アルトがいることで2拍目表でテノールがE→Dに変わるところの和音ができます。

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

・11～12小節（全員）：一度通した後、前回練習した和音の確認をしました。特に11小節2拍目（E-Gis-H）のハーモニーが決まるように注意して入ってください。

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》を後ろから練習し、最後に《Conclusio》を少しだけ練習しました。

《Fünfter Teil》

・39～44小節、68～72小節（テノール（上3声））：長いフレーズですが、途中で1つずつ切れることのないようフレーズ感を意識しましょう。

・82～83小節（ソプラノ・男声）：“Das ist:”ここは台詞ではなく「すなわち」という解説ではあるが、殊更ボリュームを落とす必要はなく、次に繋がるように自然に歌います。

・90小節（ソプラノ・テノール）：最後の“er:”この時点で既にアルトとバスで“Es ist vollbracht”が始まっています。ここは早めに終わらせて、91小節から改めて感慨深く歌い出します。

・102小節～（全員）：ここから4つ振りになると思います。“und neigete das Haupt”までは1つのフレーズだという点を意識してください。

・105小節（全員）：1拍目のハーモニーが決まるように。

《Conclusio》

・1小節（全員）：3拍目から次の1拍目のハーモニーに注意。丁寧に通過してください。

・8小節（全員）：3拍目（B-D-F）のハーモニーも綺麗に決まるよう意識しましょう。

次回は《Conclusio》をもう少し掘り下げて練習します。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年6月15日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ Wenn wir in höchsten Nöten sein

記事

全体発声：36分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

先週に引き続き《Quarta pars》から《Septima pars》を順に練習しました。

《Quarta pars》

・ハーモニーを細かく確認しつつ練習をしました。

《Quinta pars》

・文章がひとつのフレーズとして聞こえるようにプツプツ切らずに歌いましょう。

・6～7小節はソプラノの旋律が変則的なので、他のパートはよく注意して歌いましょう。

《Sexta pars》

・この曲も文章がまとまるように歌うようにとの指摘がありました。（シラブルを音に当ててるだけのように聞こえる時がある）

例えば「Befiehl dein Engel」、「dass er komm」、「und uns bewach」のようにまとめる。

・最後の小節の"Ruh"は思い入れたっぷりに入る。また"u"の母音が浅くならないように。

《Septima pars》

・13小節、及び17、8小節の"du"がフレーズの始まりであることがしっかりわかるように歌い出しましょう。

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

《最初の楽章》

・1小節～（アルト）：ひとつのフレーズになるように（言葉がプツプツ切れる）。語尾の"n"をしっかり言うことも大事です。

・14小節の"und"が新しいフレーズの始まりと明瞭にわかるよう歌い出しましょう。

《Secunda pars》

・35小節～（テノール）：5小節伸ばせるくらいの細くて小さい声で。

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》、《Conclusio》を練習しました。

《Fünfter Teil》

・16小節～：バスはイエスの慈悲に満ちた温かい眼差しを思いつつ、それにふさわしい音色で歌い出す。それに他の声部も続きます。また、一本調子にならないように。舞台上で役者が台詞を言っているように歌いましょう。

・39小節～：ここから45小節までのフレーズのアンサンブルは難しいですが、他のパートをよく聞きながら歌うように。

・52小節～：イエスが罪人に希望に満ちた言葉を話している箇所です。その雰囲気にあった口調、音色で歌いましょう。

《Conclusio》

・最初のフレーズが一本調子にならないように。フレーズの最後は収めましょう。

備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2022年6月8日（水）

練習箇所

- Christ, der du bist der helle Tag
- ヨハネ受難曲

記事

全体発声：31分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

《Quarta pars》から《Septima pars》を順に練習しました。

《Quarta pars》

動きが細かいアルトとバスで縦の線、ハーモニーを揃える練習をしました。

「2つのパートで練習する時は、相手の譜面を見ながら自分のパートを歌うように」との指摘がありました。指揮に合わせることは勿論ですが、他パートの動きを意識して歌えるよう練習していきましょう。

・22小節（バス）：4拍目のCはアルトと5度のハモリになります。ピッチが落ちないように注意。

《Sexta pars》

・"Engel"の[ng]は鼻濁音になるように発音してください。

《Septima pars》

この曲もアルトとバスの二重唱、一部女声二重唱でハモリを確認しながら練習しました。

・2小節（バス）：2拍目のGはアルトと離れているのでハモらせ難いと思うが意識するようにしてください。

・15小節（ソプラノ、アルト）：付点の後の四分音符の入りがバラけないように。テノールが入ると歌いやすいと思われるが、揃えることを意識してください。

・18小節（アルト、バス）：繊細なハーモニー（2拍目裏四分音符 Dis-Fis）を通過しています。この時代のハーモニー感にはない、得も言われぬ味わいを感じながら歌いましょう。

・22小節～（全員）：同じ長さの音符（二分音符）が増えてきて単調になりがちです。大切な言葉のアクセントを意識して抑揚をつけるように。

・40小節（アルト）：最後の"Ewigkeit"は自動的に進まないように指揮を見て歌いましょう。

★ヨハネ受難曲

《Dritter Teil》から《Fünfter Teil》途中まで練習しました。

《Dritter Teil》

・30小節～（下3声）：バスはそれまでの上3声に惑わされず、冷静に歌い出してください。口調が変化するのは34小節終わりの"und sprach..."辺りからです。37小節からのピラトの台詞に向けてだんだん盛り上がります。

・55小節～（上3声）："Die Hohenpriester..."からはそれまでのピラトの台詞と分けて強めの口調で歌い出します。60小節からの台詞に繋がるナレーションです。

・81小節～（全員）："und er trug..."綺麗に流れていくというよりは『暗く』『重い』感じを表現しましょう。少し歩みが遅くなるイメージで。

《Vierter Teil》

・15小節からの曲調がガラッと変わるところを何度か繰り返して練習しました。テンポも変わるので特に下3声は注意して歌ってください。

《Fünfter Teil》

この曲は『死に別れ』いわゆる遺言の場面です。全体を通してその雰囲気です。

・29小節（全員）：段が変わって歌詞がついていませんが、ここは前の段からの"Weib,"の言葉を歌っています。"sie"の前の音には最後[p]の子音が入ります。今回はバスが注意を受けましたが、全パート同様です。楽譜に[p]の文字を書き添えておいてください。

※35小節近辺で時間切れでしたので、次回は続きを練習します。

備考

2022年6月1日（水）

練習箇所

- Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- Christ, der du bist der helle Tag
- ヨハネ受難曲

記事

全体発声：35分

<内容>

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- 7～8小節（アルト）：輝かしい声で。8分音符はおなかの動きを付けて歌う。

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- 1小節（アルト）：細めの裏声ではあるが、声帯は閉じて歌う。

《Secunda pars》

- 20小節～（下3パート）：ハーモニー、声量のバランスを意識して他のパートと協調して歌いましょう。

《Tertia pars》

- 1～5小節のハーモニーを重点的に練習しました。
- この曲も他パートとのバランス、ハーモニーをしっかりと意識して歌うよう練習しました。

《Quarta pars》～《Septima pars》

- 1回通して歌いました。

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》

この楽章は十字架上の七つの言葉（イエスが十字架につけられてから十字架上で言った七つの言葉）を紹介しています。

今回もひとつひとつの場面ごとに歌詞の意味と音楽の構成について詳しく説明していただきつつ、練習しました。

その一部分を記載します。

（場面1：1～17小節）

- 4小節："betet"（祈る）のところで短調に変わっています。
- 7小節："Vater,"（父よ）は呼びかけを表現する音形になっています。
- 12小節～："denn"（なぜなら）とここからお願いの根拠を説明しているの、その前の部分と分けて歌います。そして音形が情緒的ではなく理詰めの口調になっていることに注目。

（場面2：16～39小節）

- 全体的に落ち着いた中にもじわりと感動がある音楽になっています。
- 16小節～：歌い出しの説明部分は穏やかに歌う。
- 26小節～："Weib,"（ご婦人よ）は十字架上から話しかける音形になっています。
- 37～38小節：この場面の締めくくり部分であり、音がたくさん動いて響きが豊になっています。16小節からここを目指して音楽を作っていきます。

（場面3：39～61小節）

- 歌詞の説明がありました。

- 最後に39小節から次の《Conclusio》まで1回通して歌いました。

2022年5月25日（水）

練習箇所

- ・ Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：33分

<内容>

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- ・ 7小節（アルト）：CからCへの跳躍。上のCは「盛大に」とのご注意でした。パート内で声を揃えて上から入りましょう。
- ・ 11～13小節：ここのハーモニーを重点的に練習しました。バスは裏声の入った表声でピッチを保つように。アルトとのオクターヴ、5度を意識してください。ソプラノはGisが上ずらないように。3度の響きを意識しましょう。

★ヨハネ受難曲

段落単位に区切って歌詞の意味と音楽の構成について詳しい解説がありました。

幾つかピックアップして記載しますが、詳細は録音をご確認ください。

《Dritter Teil》

- ・ 13～15小節："Dornen（いばら）"の言葉で付点音符を使ってトゲのイメージを表しています。言葉の頭にアクセントをつけてその雰囲気表現しましょう。
- ・ 30小節（バス、アルト）："Da führet～" それまでの兵卒たちの行動からガラッと雰囲気を変えて冷静な語りに入ります。特にバスは上3声の激しさに惑わされないよう注意。アルトも3拍目までと違います。ここはピラトがイエスを民衆の前に連れ出す場面。バスやアルトの8分音符がその様子を表しています。
- ・ 30～67小節：ピラトと、民衆や大祭司とのやり取りの場面。台詞とナレーションが交互に出てくるので役柄を意識しながら歌い分けましょう。
- ・ 81～89小節："trug sein Kreuz" 長い付点音符と下降音形が十字架を背負うイエスの歩みを表しています。
- ・ 94～97小節：ここでハーモニーがガラッと変わります。イエスが十字架につけられる場面です。

《Vierter Teil》

- ・ 10～12小節：罪状書きが当時の全ての言語で書かれていた点を強調し、丁寧に歌います。テンポの揺れに注意。
- ・ 16小節～最後：16小節アウフタクトからの下3声はガラッと雰囲気を変えて激しく前に行くイメージで。ここから最後までは通り過ぎる民衆が口々に叫ぶ様子を表現し、楽章の最後まで歌い切ります。

次回は《Fünfter Teil》に進みます。

2022年5月18日（水）

練習箇所

- ・ Christ ist erstanden
- ・ Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- ・ Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：40分

<内容>

★Christ ist erstanden

- ・ 早いテンポで慣れるよう練習しました。縦のラインも意識するように。
- ・ 8分音符で早く動くところは軽く「H」を付けて音を立てて歌いましょう。

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

- ・ 早いテンポで歌ってもフレーズとフレーズの繋ぎ部分は余裕があるように。

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- ・ 11小節の歌い出しは慌てて突っ込まず、改めて歌い出しましょう。
- ・ 出来るだけハーモニーを意識して歌いましょう。

★ヨハネ受難曲

- ・ 先週に引き続き《Dritter Teil》《Vierter Teil》を練習しました。
- ・ 情景ごとの処理の仕方を細かく教わりながら練習しました。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年5月11日（水）

練習箇所

- ・ Christ ist erstanden
- ・ Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：35分

<内容>

★Christ ist erstanden

- ・ 2月2日以来、3ヶ月ぶりの練習でした。一度歌ってみてあまりに忘れていたので、何度かゆっくり繰り返し歌いま

した。

- ・長い音符は軽くふくらませて抑揚をつけましょう。

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

- ・この曲も2月9日以来の練習でした。楽章ごとに確認し、2パートずつ音をなぞっていただいで復習しました。
- ・他パートとの縦の線やハーモニーを意識して歌えるように、復習をお願いします。

★ヨハネ受難曲

《Dritter Teil》から最後まで練習しました。

- ・場面ごとに雰囲気もテンポも変わります。指揮を見て歌えるように、また他パートと合わせるよう意識しながら歌いましょう。

次回、小曲は最後の1曲“Dieweil Gott ist mein Zuversicht”も練習します。

こちらも久しぶりですので事前に確認をお願いします。

備考

♪8月10,11日（同仁会館夏休み）は新宿文化センターでの練習となります。練習予定表更新していますのでご確認ください。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年5月4日（水・祝）

練習箇所

- ・ Wenn wir in höchsten Nöten sein
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：43分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

- ・ 男声が、女声につながる柔らかい声で歌えるように。
- ・ 抑揚を付けて歌うことの大切さを重点的に学びました。
- ・ この時代の音楽は音符を全部同じ音量で置いていくだけの歌い方では音楽になりません。自分からの働きかけがとても重要です。

大切なところ（言葉、アクセントの位置など）を歌い込むとフレーズの形が見えてきて、生き生きとした音楽になります。

・ 14小節からの全声部が揃うところは、2分音符が並んでいるので一本調子で歌うとつまらない音楽になってしまいます。しっかり抑揚を付けましょう。

- ・ 19小節の"op"（上3声）：フレーズの始まりを意識しましょう。
- ・ 33小節～（アルト）：アルトがこのフレーズの主導権を握っています。表情豊に歌いましょう。

《Secunda pars》

- ・ 17小節：“rufen”の“ru”は入れ込んで歌いましょう。
- ・ 23小節～：“Angst” “und” “Not”のそれぞれの語尾を丁寧に。

★ヨハネ受難曲

《Dritter Teil》

- ・Dritter TeilからConclusioまで通して歌った後、Dritter teilの最初の部分を丁寧に練習しました。
- ・出だしの"Da"は<>の抑揚を付けて歌いましょう。また、次の"nahm"と繋がらないように。
- ・9～23小節：歌詞を訳してから、1つの文章（＝1フレーズ）"und"～"Dornen"の抑揚の付け方などを練習しました。
- ・子音も丁寧に発音するように。
- ・"eine Krone von Dornen"がひとつのまとまった言葉であることも意識して歌う。

全ての曲について共通することですが、歌詞の意味を知ってフレーズ、大事な言葉を意識することはとても大事だと痛感しました。

先生が出してくださった、解説、歌詞対訳、ヨハネ受難曲については第25回演奏会の解説、歌詞対訳が演奏会履歴から閲覧できますので、それを参考に各自勉強していけたらいいかなと思っています。

備考

♪柿沼さんがいらしてくださり、一緒に練習をしました！

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年4月27日（水）

練習箇所

- ・Wenn wir in höchsten Nöten sein
- ・ヨハネ受難曲

記事

全体発声：32分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

- ・まず最初に、配布されている歌詞対訳の資料を見ながら歌詞を読み、リズム読みもしました。
 - この詩は散文ではなく韻文形式になっており、原則8つの音節から成っています。これを“弱-強-弱-強”のイメージで音節の長短やアクセントをつけて読んで（歌って）いくと、自然な抑揚がついてきます。棒歌いにならないよう各自で工夫してみてください。
 - ・"höchsten Nöten"「極度の苦悩」、冒頭の段落で一番大切な言葉です。滑らかに繋げて歌いましょう。
- 《Secunda pars》
- ・1小節（バス（全員））："ist"がその前の"so"の続きにならないようにしてください。特にバスはソロなので目立ちます。何度か同じ注意を受けていますので確認をお願いします。

★ヨハネ受難曲

《Dritter Teil》を練習しました。

- ・縦の線が揃うよう、他パートも意識しながら歌いましょう。慣れるまで繰り返し歌って練習しました。
 - ・106小節のソプラノの音形は意味のある音形（十字架を音符で表している）ので、そこを全員で意識しながら通過しましょう。
- 最後に、続き《Vierter Teil》から最後まで通しましたが、だいぶ忘れていたので各自復習をお願いします。

備考

♪来週は祝日ですので13:35～16:50までの練習です。場所はいつもと同じ（同仁会館2階）です。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年4月20日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：32分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- ・ 文章のフレーズが正しく出来上がるようにフレーズを作る。
- ・ 語尾の子音について今週も指摘がありました。
- ・ アルト：23～24小節の上の方の音が重たくならないように。

《Quinta pars》

- ・ アルト："sind"が「ジント」にならないように。
- ・ バス：26小節の"als"が重たくならないように。また、語尾の子音が無くならないように。

《Sexta pars》

- ・ 接続詞である"dass"と続く副文との間に、気持ち間を取るように。

《Septima pars》

- ・ バス："Ewigkeit"の"g"、語尾の"t"を言いましょう。
- ・ 他のパートを聞きながら歌う。
- ・ 冠詞、言葉のアクセント、語尾などを意識した歌い方をすれば自ずと抑揚、フレーズの表現が出来てきます。この楽章に限ったことではなく全ての曲について、出来るだけ意識して歌えるようにしましょう。

★ヨハネ受難曲

《Dritter Teil》

- ・ 2回通しました。来週も練習します。

《Vierter Teil》

- ・ 自動的に前に進むのではなく、しゃべるように歌う。例えば、"Pilatus"と"aber"は少し間を開けるなど。
- ・ 15小節（下3声部）："-nig"は極めて短く。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年4月13日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：35分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・ 最初の楽章から順に全楽章を練習しました。
- ・ 語尾の子音について繰り返し指摘がありました。弱くても良いので「子音の時間を作る」ことが大切です。
- ・ [u]の母音がどうしても日本語のウになりがちです。外国語の[u]にしてください。

《Secunda pars》

- ・ 13小節（バス）：4拍目裏のFisがFになってしまうことがあるので注意。
- ・ 21小節～："dass wir vorm Satan"の"vorm Satan"「サタンの前で」は1つの言葉として歌います。

《Tertia pars》

- ・ 26小節（アルト）：3拍目のCがCisになってしまうことがあるので注意。

《Septima pars》

- ・ 13小節～："du heilige Dreifaltigkeit"は「あなた、聖なる三位一体」の意味で、"du"と"heilige Dreifaltigkeit"は同格の言葉です。"du"の後で軽くブレスを入れてその後は1つのフレーズにしてください。

★ヨハネ受難曲

《Vierter Teil》と《Fünfter Teil》を練習しました。

- ・ 全体的に"ü"の発音が正しくできていません。「イ」でも「ユ」でもありません。各自で工夫して克服しましょう。

《Vierter Teil》

- ・ 13～14小節："Juden"の"Ju"は子音の[j]も立ててしっかり歌ってください。母音はウムラウトではありませんので深い[u]をお願いします。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2022年4月6日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：35分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・《Septima pars》（終楽章）から《Secunda pars》（2楽章）まで逆順に男声パートのみ伴奏を付けて練習した後、最初の楽章から伴奏無しで全曲を通して歌いました。
- ・一番怪しかった《Septima pars》を取り上げて、練習をしました。
- ・13～14小節のフレーズの歌い出しはブレスを取らず、レガートに歌いましょう。（バスは17小節～）

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》、《Conclusio》を練習しました。

- ・"ü"の発音に気をつけましょう。"Jünger"、"erfüllet"、"dürstet"
- ・主に男声パートをフレージングを意識しつつ、練習しました。
- ・来週は別の楽章の練習をします。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年3月30日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：31分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Vierter Teil》

- ・フレージングを確認しつつ復習をしました。
- ・歌詞の意味を考えると、フレーズもアクセントもついてきます。音に慣れてきたら是非対訳見ながら合わせてみてください。

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・《Quarta pars》から《Septima pars》（終楽章）まで練習しました。
- ・この曲も各自対訳を見ながらフレージングを考えてみてください。
- ・次回は最初の楽章から通します。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年3月23日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：32分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Fünfter Teil》

- ・フレージングなどを確認しつつ復習をしました。61小節からは言葉を再度、確認しました。
- ・フレーズの出だしの冠詞、接続詞は、強く出ないようにしましょう。（61小節の"Daß"、72～3小節の"Und"等）
- ・フレーズ毎の、場面の情景の説明がありました。情景も考慮しつつ歌えるように。

《Conclusio》

- ・言葉を付けて歌いました。
- ・出だしの"Der"は長母音です。
- ・2小節（アルト）：3拍目のgをバスのgと共有するように。

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・最初の曲～《Quinta pars》を歌いました。
- ・語尾の子音をなるべく発音するように。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2022年3月16日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲

記事

全体発声：33分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Vierter Teil》

- ・先週の復習をしました。
- ・16小節からは民衆が十字架上のイエスを罵倒する場面です。言葉のアクセントを意識して情景がわかるように歌いましょう。

(歌詞対訳をOneDriveに掲載していますので参考にしてください)

- ・16～17小節（下3声）：アルト&バスvsテノールでリズムの掛け合いになっています。アクセントの位置を意識して違いが明確になるようにしてください。
- ・19～20小節（上3声）："schütteln"の八分音符は、言葉通り頭を振っているしぐさを現しています。
- ・23小節（アルト・バス）：3拍目のEsをオクターヴで合わせましょう。上から入るようにしてください。
- ・23小節（下3声）：4拍目"brichst"は付点八分音符でソプラノと半拍ずれます。語尾の"-chst"を言い切り、次裏拍の"du"を出せるようリズム感良く発音しましょう。
- ・25小節（全員（特にバス））：2拍目までの"Tempel"と3拍目からの"und"は明確に分けます。そしてアクセントは次の"bauest"の方にかかるので軽く歌い出します。
- ・26小節（全員）：1拍目と3拍目のハーモニーを意識しましょう。特に3拍目はバスのFがキーになっています。

《Fünfter Teil》

- ・少しずつ区切りながら音取りし、言葉をつけて歌いました。
- ・最後の61小節からは来週もう一度言葉をつけ直しますが、各自復習をお願いします。

備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年3月9日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲

記事

全体発声：37分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Vierter Teil》

- ・音取りをしてから、言葉を付けて歌いました。
- ・13小節：3連音符一つを2分音符とします。なのでこの小節は2分の3拍子となります。
- ・22小節："Pfu"は"u"の母音を長くする。

《Dritter Teil》

- ・復習をしました。
- ・言葉のアクセントの位置を強めに、語尾を収める、大事にするべき言葉を強調するなど、抑揚をつけて歌いましょう。そうでないと、フレーズ感が出てきません。下手すると、お経のように聞こえてしまいます。
- ・またいずれは、歌っている場面の情景を理解して、それに合った歌い方が出来る様に。

備考

冒頭へ

2022年3月2日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag 《Tertia pars》
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：34分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag 《Tertia pars》

- ・ ゆっくりしたテンポで、ハーモニーを確認しながら復習しました。 ・ 3小節（全体）：1拍目のハーモニーが決まるよう聴き合いながら歌いましょう。
- ・ 15小節（男声）："über"のウムラウトが「イ」になりすぎないように。きちんと口をすぼめて発音してください。
- ・ 17小節（アルト・バス）：4拍目の5度のハモリが綺麗に決まるように意識しましょう。アルトは入りの"dass"はあまり勢いよく入らず、ピッチを正確に丁寧に。バスは直前のオクターヴの跳躍でピッチが不安定になりやすいです。
- ・ 18小節（アルト・テノール）：1拍目の3度のハモリを確認。アルトのDisが上ずりすぎないように注意。

★ヨハネ受難曲 《Dritter Teil》

- ・ 先週、最後まで音取り完了したはずなので、定着できるよう各自復習をお願いします。
- ・ 全体的に"und"で始まるフレーズが随所に出てきます。1拍目に置かれていることもあります。あまりそこにアクセントをつけすぎないように、軽く入ることを心がけてください。そして語尾[t]が聴こえないことがあります（特に男声）。しっかり発音して次の言葉が立つようにしましょう。
- ・ 各パートで順に付点のリズムが出てくる箇所（例えば12～15小節など）でリズムが噛み合わないことがあります。自分のパートのリズムを正確に歌うと共に、他パートとの関係も意識できるようにしていきましょう。

来週は、《Vierter Teil》《Fünfter Teil》に入ります。予習・復習をお願いします。

備考

 [冒頭へ](#)

2022年2月23日（水・祝）

練習箇所

- ・ ヨハネ受難曲
- ・ Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：32分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・75小節～の復習をしました。フレージングを意識しましょう。また、棒読みにならないよう、アクセントの位置、軽く歌う音符など、意識して歌いましょう。
- ・ピッチもよく気をつけて。ハーモニーを意識しましょう。
- ・最後の部分の"a"の母音は落ちやすいので気をつけましょう。
- ・108小節の内声の入り方（外声部で「ピラトが言った」と歌い終わらないうちに、ピラトの言葉を歌い始めている）は劇的なので、その醍醐味をしっかりと表現しましょう。
- ・89小節～：歌い出しの"Ich"はあまり強くしないように。その後続くメロディを紡ぎ出す最初の部分という位置づけで。
- ・92小節～："und in die Welt"内声部は埋もれないようにしっかり歌いましょう。
- ・最後に全曲を通して歌いました。

《Dritter Teil》

- ・音取りをしてから、言葉を付けて歌いました。

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- ・ゆっくりのテンポで歌ってから、2拍子を意識して、早めのテンポで練習しました。

《Secunda pars》

- ・この曲もゆっくりのテンポで歌ってから、早めのテンポで練習しました。
- ・最後に2曲を通して歌ったあと、《Tertia pars》を1回歌いました。

備考

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年2月16日（水）

練習箇所

- ・ Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：28分

<内容>

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- ・ ヴォカリーズで復習した後、3番まで再度歌詞を読んでから歌いました。
- ・ 本来は2拍子なので、少しずつテンポアップして練習しました。
- ・ 7小節（アルト）：3番の歌詞"jeder"では、1つの言葉の中でオクターヴ上がるので、ずり上げないように注意してください。
- ・ 10小節（全体）：この小節のセミコロンでフレーズが終わり、次からバスが仕切り直します。語尾らしくスッと消

えるように歌いましょう。

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- ・昨年12月初以来、2ヶ月半ぶりでした。一度ヴォカリーズで歌った後、歌詞を付けて復習しました。
- ・6小節（バス）：1拍目裏のFisは前の小節で（アルトの）Fが鳴っているので引っ張られないように。
- ・22小節（アルト）：入りのHはテノールのAとぶつかります。しっかりした表声でぶつけないでください。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・最初に古楽ピッチで通した後、ピッチをモダンに戻して男声中心に全体的な歌い方を合わせて練習しました。
- ・言葉と音符のフレーズが一致するように。文の構造を意識しながらフレーズを歌えるように工夫してください。
- ・実際はとてもドラマチックな楽章なので今後色をつけていくことになるが、その土台は柔らかい声でハーモニーを作れるようにしてください。
- ・126小節（バス）：3拍目のFの音がGになっています。確認しておいてください。

来週は、ヨハネ受難曲《Dritter Teil》に入ります。予習・復習をお願いします。

備考

♪水野先生が小曲集の各楽曲の解説および歌詞の対訳を出してくださいました。

♪4月以降の練習予定および個人発声スケジュールを連絡済です。予定の確認をお願いします。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2022年2月9日（水）

練習箇所

- ・ Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- ・ Dieweil Gott ist mein Zuversicht
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：33分

<内容>

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

- ・ 全楽章の復習をしました。

★Dieweil Gott ist mein Zuversicht

- ・ ヴォカリーズで音取りをした後、3番まで歌詞を付けて歌いました。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・ 復習をしました。

備考

2022年2月2日（水）

練習箇所

- Allein zu dir, Herr Jesu Christ
- Christ ist erstanden
- ヨハネ受難曲

記事

全体発声：31分

<内容>

★Allein zu dir, Herr Jesu Christ

- 楽章ごとにヴォカリーズで音取りした後、言葉をつけました。
- Der ander Teil 7小節（テノール）：3拍目はC→Dに変えてください。8小節はCのままです。

★Christ ist erstanden

• イタリック体の歌詞について：編集者が別の歌詞（この詩の第2節）をあてたもの。この曲はテノールとバスがカノンになっているのが特徴的なので、別の歌詞をつけても良いですよ、という意味合いとのことです。今のところはノーマルな歌詞の方で演奏します。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- 一度通した後、105小節から復習しました。
- 120小節（バス）：2拍目でGに下りるところが不安定になりやすいので確認しておいてください。
- 126小節（バス）：3拍目のFの音を取り切れていないようです。確認しておいてください。

来週は小曲の残り1曲と、ヨハネ受難曲はDritter Teilに入ります。予習・復習お願いします。

備考

2022年1月26日（水）

練習箇所

- Wenn wir in höchsten Nöten sein
- Christ ist erstanden
- ヨハネ受難曲

記事

全体発声：27分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

- ・全曲を少し早いテンポで通して歌った後、復習をしました。

★Christ ist erstanden

- ・歌詞はイタリック体ではない方を用いるので（将来的には使用するかもしれませんが）、小さい音符は無視してください。
- ・音取りをした後、歌詞をつけて歌いました。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・31小節から60小節まで、ヴォカリーズで音取りした後、歌詞を付けて練習しました。
- ・60小節から105小節、105小節から最後に区切って、それぞれ音取りをした後、言葉を付けて歌いました。
- ・101,102小節："der"は指示代名詞なので、長母音です。アクセントを付けましょう。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年1月19日（水）

練習箇所

- ・ Wenn wir in höchsten Nöten sein
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：29分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

《Secunda pars》

- ・再度歌詞を読み直して練習しました。
- 《最初の楽章（35ページ最後まで）》
- ・所々忘れていた箇所を中心に復習しました。少しずつテンポアップできるように、発音やリズム、ハーモニーに慣れましょう。

★ヨハネ受難曲

《Zweiter Teil》

- ・先週音取りをした31小節まで、再度歌詞を読み直して練習しました。
- ・その後60小節まで、ヴォカリーズで音取りした後、歌詞を付けて歌いました。

来週はヨハネ受難曲の続きと、小曲も新しい曲に入ります。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年1月12日（水）

練習箇所

- ・ Wenn wir in höchsten Nöten sein
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：41分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

最初の楽章（35ページ最後まで）

- ・ ハーモニーを確認しつつ復習をしました。
- ・ アルトの出だしは、3a、4のポジションを使って、高めのピッチを意識して歌いましょう。

《Secunda pars》

- ・ ヴォカリーズで音取りをした後、歌詞を付けて歌いました。
- ・ バス："so"と"ist"は繋げず、言い直して歌いましょう。

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・ 復習をしました。

《Zweiter Teil》

- ・ 31小節までヴォカリーズで、音取りをした後、歌詞を付けて歌いました。

来週は新しい曲、Christ ist erstanden（赤のシール）、Allein zu dir,Herr Jesu Christ（白のシール）も練習します。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2022年1月5日（水）

練習箇所

- ・ Wenn wir in höchsten Nöten sein
- ・ ヨハネ受難曲

記事

同仁教会がお休みでしたので、目黒区東山社会教育館にて練習を行いました。

全体発声：32分

<内容>

★Wenn wir in höchsten Nöten sein

最初の楽章（35ページ最後まで）

・ この曲の記譜はテノールパートが女声と同じ音（普通のト音記号）、バスパートがト音記号（8va vassa（女声の1オクターヴ下））で記譜されています。

ほかの曲と異なりますのでご注意ください。

- ・ ヴォカリーズで音取りした後、言葉をつけました。
- ・ "höchsten"は口をたくさん動かしてしっかり発音してください。

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・ 一度通した後、103小節から最後までを練習しました。
- ・ 103～109小節まではペトロが剣で祭司の役人の耳を切り落としてしまう場面です。
- ・ 110小節からイエスがペトロに剣を納めるよう諭す場面になるので、変化をつけてレガートに歌います。
- ・ 152～163小節からはケンカの場面。下役がイエスの頬を打ち「大祭司にそのような口をきいてよいのか」と罵る場面です。
- ・ 163小節からガラッと情景が変わります。上3声が福音史家で伝えたあと、バスがイエスの言葉を歌い出します。バスはそれまでのケンカの場面は休符で、166小節でいきなりイエスの台詞から歌い出す、ここが重要です。上3声も同じ言葉を追って歌いますが、バスがその役割を担っていることを意識して、権威をもって歌いましょう。
- ・ 167～171小節まで、上3声にはまだ音の動きがあります。「私が悪いことを話したのならそれを証明せよ」
- ・ しかし、172小節からは音の動きが無くなります。「しかし、私が正しいことを話したのならなぜお前は私を打つのか」騒ぎがだんだん収まる様子を音で示しています。
- ・ 177小節後半からアンナスがイエスを大祭司カイアファのもとへ連れていく場面です。映画で言うと登場人物のアップからカメラがスーッと引いていき静寂となる、そんな場面をイメージしてみてください。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年12月22日（水）

練習箇所

- ・ ヨハネ受難曲
- ・ Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：48分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・細かく分けながら、音取り、言葉を再度復習。最後に通して歌いました。
- ・105～107小節：テンポが走りがちになるので気を付けましょう。
- ・164小節（アルト）：最後まで同じ太さで歌わず、スーッと抜きましょう。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Sexta pars》

- ・ヴォカリーズで練習した後、言葉をつけました。

《Septima pars》

- ・ヴォカリーズで歌いました。

- ・来年は今日の練習箇所に加えてWenn wir in höchsten Nöten sein（緑のシール）も練習します。

備考

♪ 来年1月5日の練習会場が変更になっています。ご注意ください。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年12月15日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：40分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

《Quinta pars》

- ・ヴォカリーズで復習した後、言葉をつけました。
- ・2小節（アルト）：2拍目のFisが高めに浮きがちです。この時代、長調・短調の区別が明確にあるわけではありませんが、短調のイメージで解説がありました。ここは階名でラ-シドとなりますが、ラ→シの全音は狭く、シ→ドの半音は広く取ります。＃の音を高めに取ろうとすると上ずる傾向がありますので注意してください。
- ・12小節（バス）：1小節半お休みの後の入りです。上3声の和音に入っていく気持ちで歌い出しましょう。今日はテノールとのハモリを確認しましたが、常に他パートの音が聴こえている状態を保てる発声を意識してください。
- ・26小節（バス）：前の小節から来る"Rat"のあとにコンマがついています。ここでフレーズが切れますので、早めに語尾を発音してブレスして、3拍目を入り直すようにしましょう。

《Sexta pars, Septima pars》

- ・ヴォカリーズで2回ほど通しました。
- ・これらの楽章は次回以降練習していきます。

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・はじめから歌い出し、115小節近辺まで通しました。（時間切れで途中で終了）

備考

♪15分ほどお時間をいただき、総会を無事に開催しました。ご協力ありがとうございました。

♪来年1月5日の練習会場が変更になっています。ご注意ください。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年12月8日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：39分

<内容>

★ヨハネ受難曲 《Erster Teil》

- ・103～152小節を先週と同じように、文章のかたまり、アクセントを意識しつつ練習しました。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Tertia pars》

- ・音を確認した後、言葉を付けて練習しました。

《Secunda pars》

- ・言葉を付けて練習しました。
- ・15～16小節："vorm bösen"はつながっても良い。

《Quarta pars》

- ・音取りをした後、言葉を付けて練習しました。

《Quinta pars》

- ・音取りをしました。

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年12月1日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：42分

<内容>

★ヨハネ受難曲 《Erster Teil》

- ・50～109小節：文章のかたまりを意識しつつ再度発音を確認し、小分けにして練習しました。言葉の抑揚やブレスの位置など再確認しながら歌いましょう。
- ・ここはユダが群衆を連れてイエスの前に現れるシーンです。群衆やイエスの台詞（” ”がついてます）と福音史家の語りの部分で雰囲気ガラッと変えられるようにしてください。（64～70小節など）
- ・71小節（バス）：欄外のBは活かします。
- ・94小節（上3声）：4拍目はアルトが一番下の音でミソドの和音になります。ハモリを意識して通過しましょう。
- ・103～109小節はリズムが取り辛いのでリズム読みして練習しました。テンポがアップすると混乱しやすいので各自復習をお願いします。
- ・106小節（バス）：3拍目裏の下のCが不安定です。再度音の確認をお願いします。

★Christ, der du bist der helle Tag

《最初の楽章》

- ・"Christ"の後のカンマを活かしてフレーズングしてください。
- ・1小節（アルト）：[i]の母音が締まり過ぎないように注意してください。

《Secunda pars》

- ・ヴォカリーズで復習しました。
- ・1～2小節（男声）：ここの二重唱をきっちり決めましょう。それぞれの入りのA、2小節3拍目のG-Dの5度など、ピッチを美しく決めてください。
- ・この楽章は次回言葉をつけます。

備考

- ♪ 譜読みを先に進められるよう、以前練習した箇所の復習は各自しっかりお願いします。
- ♪ 総会は12月15日に変更します。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年11月24日（水）

練習箇所

- ・Christ, der du bist der helle Tag
- ・ヨハネ受難曲

記事

全体発声：38分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・最初の楽章を練習しました。
- ・ヴォカリーズで歌って音を確認した後、文章のかたまりを意識しつつ発音を再確認して練習しました。
- ・文章のかたまりを一つのフレーズと捉えて、ブレスの位置もそれを参考にしましょう。

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・1～50小節：この曲も同様にヴォカリーズで歌った後、文章のかたまりを意識しつつ発音を再確認して練習しました。
- ・1～10小節はこの曲の題名を述べています。荘厳、厳粛なイメージを持って歌いましょう。
- ・フレーズの最後が全音符など長い音の時は、自然に減衰しましょう。
- ・50～103小節：ヴォカリーズで練習した後、言葉を付けて1回歌いました。

備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年11月17日（水）

練習箇所

- ・ Christ, der du bist der helle Tag
- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：44分

<内容>

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・ Quarta parsの音取りをして歌詞もつけました。
(Secunda pars, Tertia parsの言葉は別の機会につけます)

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・一度通した後、1～10小節まで復習しました。
- ・先週練習した言葉の抑揚を意識しながら歌いましょう。
- ・冒頭の"Das"、[d]の子音は無いくらいで大丈夫です。次の"Lei-"に重みが来ます。

備考

- ♪ テノールパートに見学者がいらっしゃいました！
- ♪ 総会は12月8日に行いますので予定しておいてください。

2021年11月10日（水）

練習箇所

- ・ ヨハネ受難曲

記事

全体発声：41分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・ 最初から75小節あたりまでブレスの入れどころ、フレージング、抑揚の付け方を練習しました。
 - ・ 言葉のアクセントがあるところで、しかも長い音符の時は、思い入れをいれて歌う。
 - ・ 拍子記号「C」は不完全である偶数系の拍子（2拍子、4拍子等）であることを表しています。
- 言葉のアクセントによって拍子が決まるので、言葉の抑揚に合わせて歌うことが大事です。
 （ルネサンス以前は、キリスト教の三位一体の教えから三拍子が完全であるとされていて、それを「○」で表し、その後に来た2拍子や4拍子は不完全拍子として円の一部分が欠けた半円「C」と表された）
- ・ 発音について
 - 出だし"Das"は柔らかく。（破裂させない）
 - 10小節～："Da"は軽く。
 - 50小節："Als"は子音を言い切る。
 - 60小節："suchet"は"u"の母音を深めに。語尾は「へ」にならないように。
 - 63小節："sie"は「ジー」にならないように。

備考

2021年11月3日（水）

練習箇所

- ・ ヨハネ受難曲
- ・ Christ, der du bist der helle Tag

記事

祝日でしたので、午後（13:30～17:00）休日練習を行いました

全体発声：48分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・129小節から最後までヴォカリーズで音取りをしました。
- ・以前練習した50小節以降、区切りながら発音を確認した後リズム読みをし、言葉をつけて練習しました。

★Christ, der du bist der helle Tag

- ・以前音取りをした最初の楽章からTertia Parsまで、ひと通り歌ってみました。
- ・この曲はSecunda Pars以降言葉をつけていませんので、次回言葉をつけます。

備考

♪アルトの大友さんが復帰されました。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年10月27日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：33分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・103小節から129小節まで新たに音取りをしました。
- ・最後に1～129小節の復習をしました。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Tertia pars》

- ・音取りをしました。

《Secunda pars》

- ・先週の復習をした後、言葉を付けて歌いました。
- ・"vorm bösen" と "dir ruhen" は、結果的に発音がつながってもいいです。

《最初の楽章》

- ・復習をしました。

備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2021年10月20日（水）

練習箇所

- ・ヨハネ受難曲
- ・Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：33分

<内容>

★ヨハネ受難曲

《Erster Teil》

- ・新たに50～100小節までヴォカリーズで音取りをしました。
- ・この曲は比較的和音をはめやすいので4声一緒に練習を進めています。可能な人は移動ドで音を取るようになりましょう。
- ・先週練習した1～50小節までヴォカリーズで復習し、再度発音を確認した後、言葉をつけて練習しました。

★Christ, der du bist der helle Tag

《Secunda pars》

- ・ヴォカリーズで音取りをしました。2パートずつ確認しながら何度か練習しました。
- 《最初の楽章》
- ・先週練習した箇所をヴォカリーズで復習、再度発音を確認した後、言葉をつけて練習しました。
- ・22小節（アルト）：出だしのHは、テノールのAにしっかりぶつけて入ってきてください。

★Topic～リガトゥーラについて

今回練習している曲の楽譜には、音符をカギカッコのように囲っているところが幾つかあります。

これはリガトゥーラ（Ligatura 連結符）とって、グレゴリオ聖歌の頃の記譜法の名残です。

当時は、音のまとまりをダイレクトに感じる事が出来るような音符の書き方がされていました。

参考URL：<http://maucamedus.net/franco/franco04.html>（楽譜のイメージ図が出ています）

現代譜に変換される時に音符が独立し、小節線が導入されたことで、結びつきの意識が弱まってしまいました。

その点を補足するため、このような記載がされている楽譜があるとお話でした。

次回は今日新しく練習した箇所に言葉をつけます。

また、ヨハネ受難曲は129小節まで、Christ, der du bist der helle Tagは次の楽章へ進みます。

備考

♪楽譜代は3,000円となります。月会費と合わせて振込の方よろしくお願ひします。

■ [冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2021年10月13日（水）

練習箇所

・ Historia der Passion und Leidens unsers einigen Erlösers und Seligmachers Jesu Christi (以降、ヨハネ受難曲と記述します)

・ Christ, der du bist der helle Tag

記事

全体発声：28分

<内容>

★ヨハネ受難曲

・ 欄外の臨時記号は取り敢えず生かします。

《Erster Teil》

・ 50小節まで音取りをした後、言葉を付けて歌いました。

★Christ, der du bist der helle Tag

最初の楽章 (2ページ目中段まで)

・ 音取りをした後、言葉を付けて歌いました。

今後、この2曲をこのくらいの小節数で平行して練習する予定です。

備考